

バングラデシュ高潮被害海岸調査

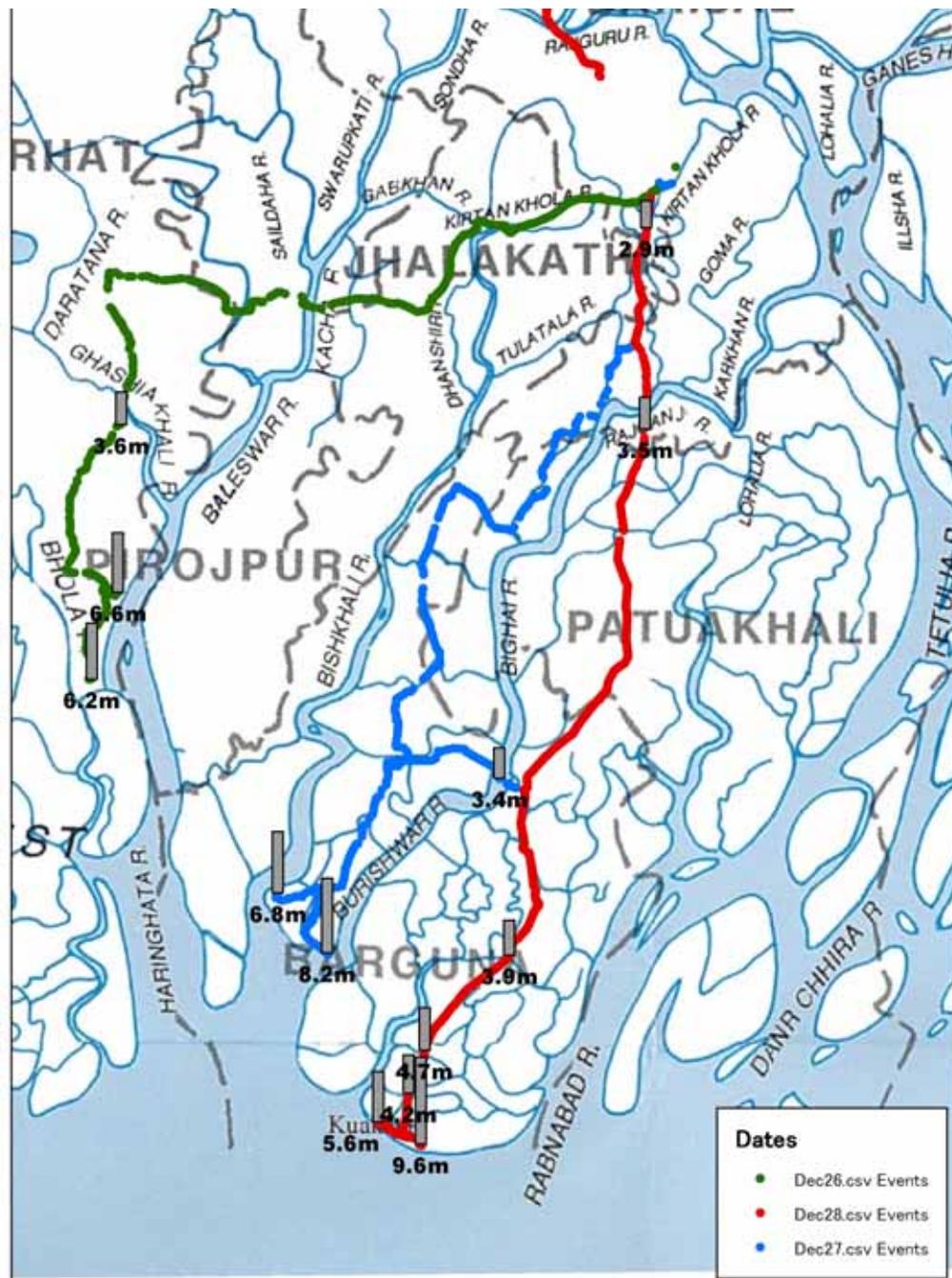
柴山知也 田島芳満 柿沼太郎 信岡尚道 安田誠宏

Raquib Ahsan, Mizanur Rahman, M. Shariful Islam

塚本俊也 林興治







Royenda Bazar, Sarankhola Baleshwar||





写真 被災後に建てられた家屋

Southkhali

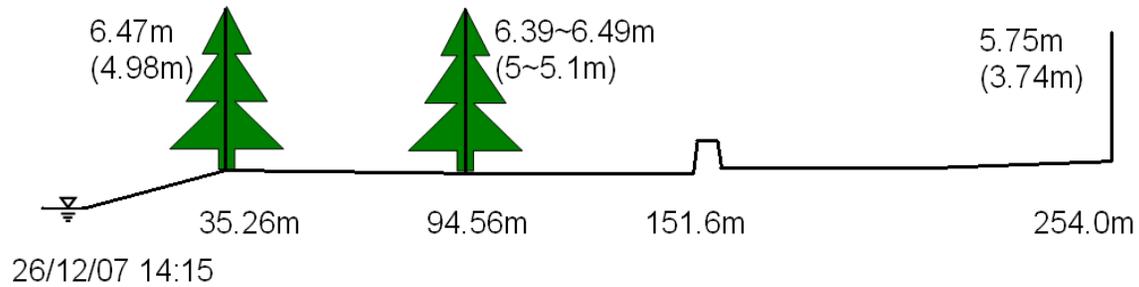


図2.3 浸水高の測量結果 (Southkhali)



写真 Southkhaliにおける倒木



写真 Southkhaliにおける破堤部







高潮の第1波が、河岸から約150 m内陸に造られた堤防まで迫り、第2波がこの堤防を越え、そして、第3波がシェルタまで押し寄せた。これらの段波の周期は、1分程度であった。高水位が、約15分間継続した。氾濫水は、赤色を帯びていたそうである。

シェルタの2階には、主として女性と子供が避難していた。シェルタが建つ土台の上面から3.8mに位置する窓下端から、パチャパチャと2階室内に浸水があった。また、この2階部の床上0.59cmまで水が侵入した。シェルタが建つ土台の上面から、シェルタ2階の床までの高さは、2.99 mであった。

2階部に水が入り、避難していた人々は、怖くなって逃げ出そうとしたが、風が強く、シェルタのドアを開けることができなかったそうである。ドアを無理やり開けようとした痕跡が見られた。

3 . Somboniya



測量 1 幹の部分が水没した



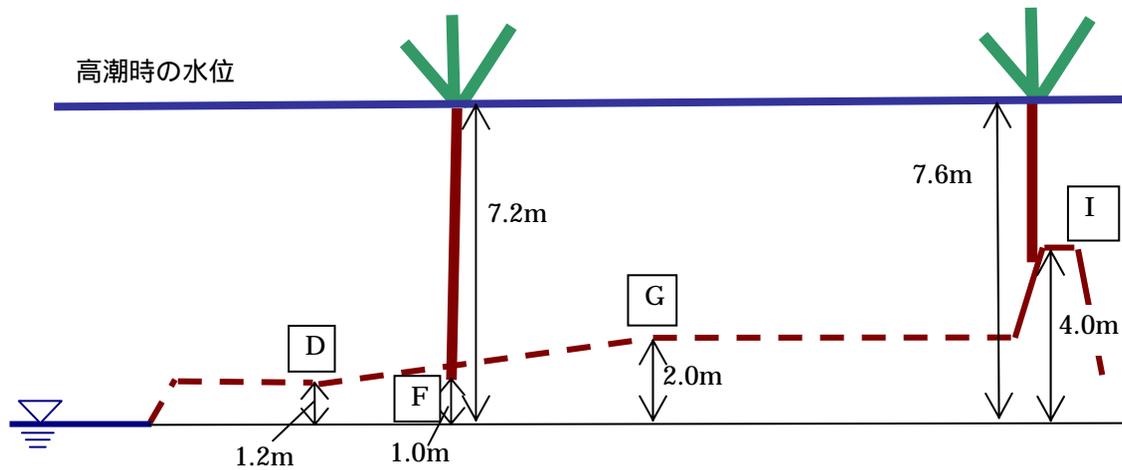
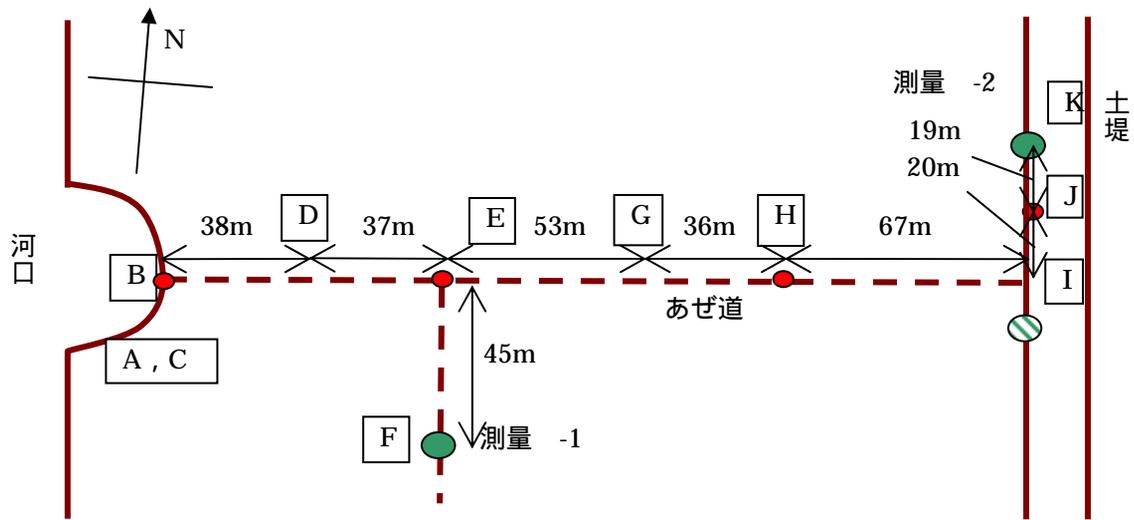
測量 2 土堤でのやしの木での浸水高





Somboniya



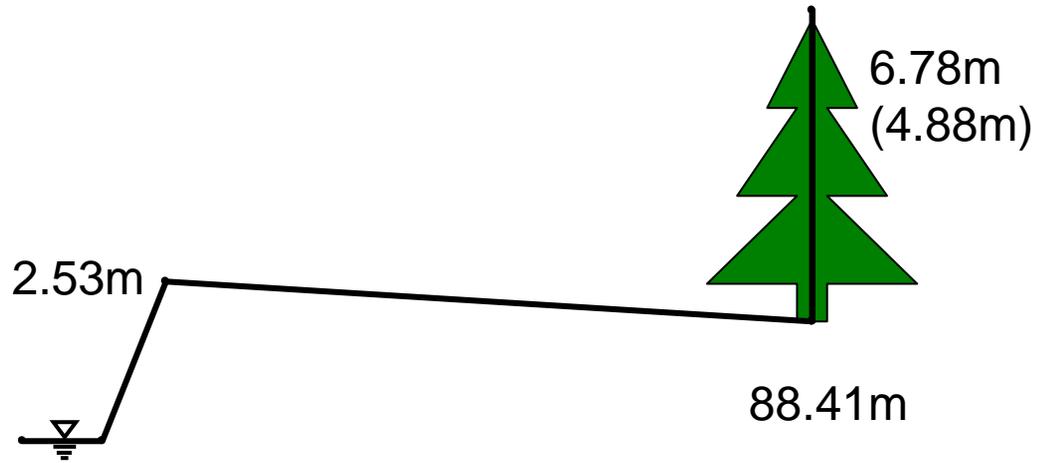


Naltona



Photo 10: Naltona海岸の測量した木

Naltona





写真： Naltonaで陸に打ちあがった船



写真 2 : Naltonaの河岸侵食

地元の人々からは、「サイクロンシェルターまでは遠く離れている。この地域にシェルターは、あとは3つか4つ必要」との要望が寄せられた。

高潮が段波を伴って来襲してきたという目撃証言が多く聞かれた。段波の形成メカニズムや、段波による流体力を特に勘案して高潮対策を行う必要がある。